

D-1

要旨

Shiobara (2016)は、左枝条件 (Left Branch Condition) への例外となる、英語、日本語における Left Branch Extraction (LBE) を分析し、その結果が LBE を統語論的に捉える提案 (Bošković 2005, Takahashi and Funakoshi 2013 など) には問題があることを示し、LBE は音韻と統語のインターフェイスの観点からアプローチすべきことを主張した。本発表は Shiobara (2016)では残る問いとしていたスラブ系言語の LBE について、クロアチア語の例を分析することにより、LBE は音韻かつ意味と統語のインターフェイスの観点からアプローチすべきことを主張する。クロアチア語は、容認可能な LBE において音韻的に卓立しない要素は挿入句に限らないという点で英語よりも日本語に近い。このことは、LBE に見られる言語間の違いは、音韻卓立を位置で規定する言語 (英語) と高低のパターンで規定する言語 (日本語、クロアチア語) という言語の音韻的な特徴の違いに帰されるという可能性を示唆する。

1. Left Branch Condition とその問題点

Ross(1967/86)は(1)のように定義される Left Branch Condition (LBC)を提案し、それによって、例えば英語で wh 名詞句内の左枝に位置する所有句の NP のみを文頭に移動した(2b)は排除されるとしている。

- (1) No NP which is the leftmost constituent of a larger NP can be reordered out of this NP by a transformational rule. (Ross 1986: 127)
- (2) a. Whose father did you see?
b. *Whose did you see father?

LBC の問題点

理論的な問題(Shiobara 2016)

- ・ “leftmost”と線の順序に言及している。
- ・ “NP”という特定の統語範疇に言及している。

どちらも、言語能力の遺伝的基盤 (普遍文法、UG) を言語固有ではない一般法則とインターフェイス条件から帰結しようとする 1990 年代以降のミニマリスト・プログラムの思考法にそぐわない (Chomsky 1995 and subsequent work, e.g. 2015: 24)。

経験的な問題としては、例外つまり LBE の存在がある (Shiobara 2016)。

English

- (3) a. *Whose_i did he decide to throw away [_{t_i} letters]?
b. ?Whose_i, I am wondering, [_{t_i} letters] did he decide to throw away?
- (4) This will be his_i perhaps [_{t_i} last book]. (Shiobara 2016: 150)

Japanese

- (5) a. *[Dare-no]_i Taro-ga [_{t_i} tegami]-o sutetano?
b. [Dare-kara-no]_i Taro-ga [_{t_i} tegami]-o sutetano? (Takahashi and Funakoshi 2013: 237)
(6) [Tanaka sensei no]_i, tabun kore-ga [_{t_i} saigo no chosho-ni] naru daro. (Yatabe 1996: 304)

Serbo-Croatian

- (7) a. [Čijeg]_i si vidio [_{t_i} oca]?
whose are seen father ‘Whose father did you see?’
b. [Ta]_i je vidio [_{t_i} kola].
that is seen car ‘That car, he saw.’
c. [Lijepa]_i je vidio [_{t_i} kuće].
beautiful is seen houses ‘Beautiful houses, he saw.’ (Bošković 2005: 14-15)

2. LBE に関連する先行研究

2.1. Bošković (2005)の統語的なアプローチとその問題点

Bošković の導いた一般化

- (8) i. Scrambling 言語のみが、(形容詞句の) LBE を許す。
ii. NP 言語 (つまり D を持たない言語) のみが、scrambling を許す。
(cf. Uriagereka 1988: 113)

(8)に関連する例

- (9) a. LBE を許すスラブ系言語(Russian, Serbo-Croatian, Polish, and Czech)やラテン語は、
すべて scrambling 言語である。
b. 英語や現代ロマンス系言語は scrambling 言語ではなく、LBE を許さない。
c. 日本語は NP 言語であり(Fukui 1986)、scrambling を許す。しかし、形容詞に一致現象
が見られないため、LBE を許さない。(Bošković 2005: 40)

Bošković の分析の問題点

- (10) a. 英語の LBE (e.g. (3), (4))と日本語の LBE(e.g. (5), (6))の存在。
b. 日本語は形容詞句に一致現象は見られないが、名詞句は豊かな格助詞を伴う。

2.2. Takahashi and Funakoshi (2013)(T&F)の統語的なアプローチとその問題点

T&F の主張

- (11) i. 日本語において、属格の名詞句 NP を含む KP は phase となるためそこからの NP の抜き出しは Phase Impenetrability Condition 違反となるが (* (5a))、属格の前置詞句 PP を含む KP は phase とならず LBE を許す ((5b))。
- ii. 日本語における LBE は、overt wh-movement の例である。

(11ii)に関連する例

- (12) a. ??[Hanako-kara-no]_i Taro-ga [_{t_i} tegami-o] sutetano?
 b. [Dare-kara-no]_i Taro-ga [_{t_i} tegami-o] sutetano? (Takahashi and Funakoshi 2013: 244)

T&F の分析の問題点 (Shiobara 2016)

- (13) a. さらに日本語の LBE の存在(e.g. (6))と、(12) の容認性の判断の揺れ。
 b. 日本語以外の言語の LBE に対してどのような説明を与えるのか、不明。

- (14) ??[Dare-e-no]_i Taro-ga [_{t_i} tegami-o] sutetano?
 ((5b) > ??(14) > *(5a)) (Shiobara 2016: 146)

2.3. Shiobara (2016)の統語—音韻インターフェイスからのアプローチとその問題点

Shiobara (2016)の一般化

- (15) 英語と日本語の LBE 文は、強—弱—強…の韻律パターンを示す時に可能となる。

例えば既に見た LBE の例 (e.g.(3b),(4),(6)) において、文頭句とその痕跡の間にあるものは挿入的つまり音韻的に弱い要素であり、その結果文頭句は相対的に強くなり強—弱…パターンを導く。

Shiobara (2016)の分析の問題点と、残る問い

- (16) a. LBE 文で、文頭句とその痕跡の間にあるものが挿入的なものでない場合(e.g. (5b), (12b))、どのような予測をするのか、不明。
 b. 英語、日本語以外の言語、特にスラブ系言語の LBE ではどうなっているのか。

3. クロアチア語の LBE の分析

(16b)を踏まえ、クロアチア語の LBE 文の容認性を再確認した上で韻律パターンを分析し、その結果が基本的に Shiobara (2016)の一般化を支持し、さらに LBE は音韻と統語のみならず意味と統語のインターフェイスにも動機づけられているということを主張する。

クロアチア語について (中島・野町 2019, *WALS online*)

- (17) a. (S)VO の基本語順を持ち、名詞は主要部後続型
 b. Wh 句は文頭に置くことが多い

- c. 音韻的には、音の強弱だけでなく高低も使うアクセントを持っている（中島・野町 2019: 10）。

クロアチア語の LBE 文に関連して

- (18) a. 英語より語順の自由度が高く、LBE において文頭句とそれが意味づけられる名詞との間に
来るものは挿入句に限らない。
b. 特に、be 動詞等の音韻的に軽い前接辞は原則として文頭から 2 番目が定位置となっ
ている（中島・野町 2019: 145）。

例えば ‘whose father did Natasha see?’ という疑問文の場合、(19)のように be 動詞にあたる *je* が *čijeg* (whose) と *oca* (father) の間に現れるのが最も自然であり、その結果 LBE 文が生じる。

(以下、LB 要素と、それと意味的に関連する N を□で囲んで示す。)

- (19) □Čijeg□ je □oca□ vidjela Nataša?
whose is father see Natasha ‘Whose father did Natasha see?’

その他(20a,b)のような語順も可能であるが、母語話者によると(20b)は“sound poetic”であるそう
だ。(下の(22b,c)も然り。)

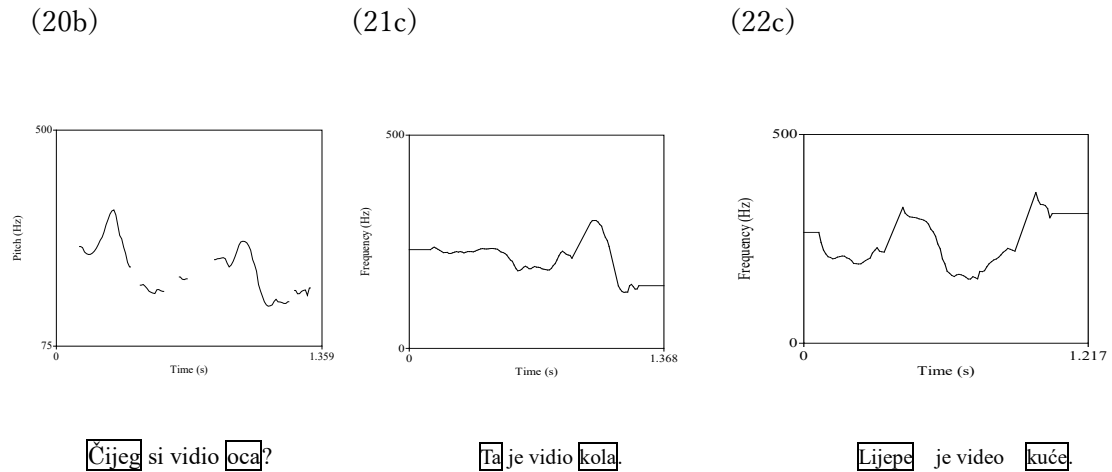
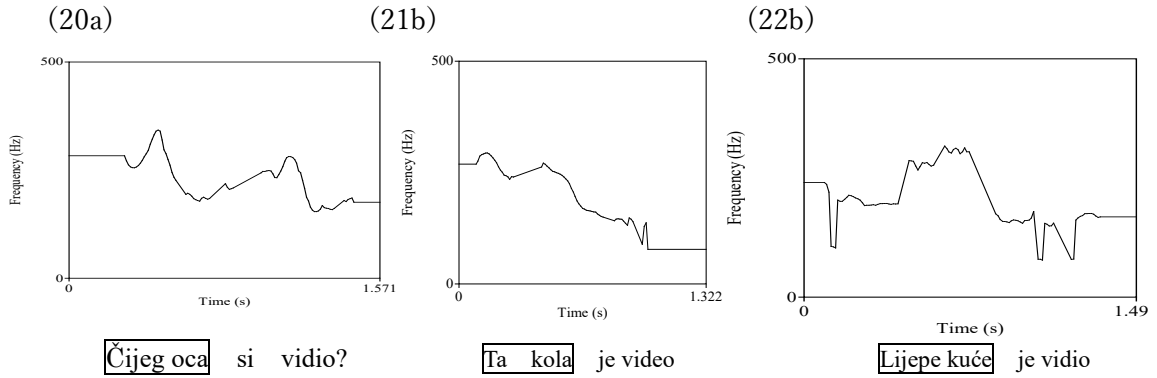
- (20) a. □Čijeg oca□ si vidio?
whose father are seen ‘Whose father did you see?’
b. □Čijeg□ si vidio □oca□
whose are seen father ‘Whose father did you see?’

指示詞や形容詞句も、それぞれ(21c)(22c)に見られるように、意味的に関連する名詞から離れて
文頭に現われうる。

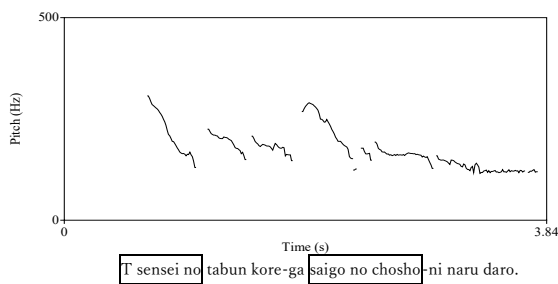
- (21) a. Vidio je □ta kola□.
seen is that car ‘He saw that car.’
b. □Ta kola□ je vidio.
that car is seen ‘That car, he saw.’
c. □Ta□ je vidio □kola□.
that is seen car ‘That car, he saw.’
(22) a. Vidio je □lijepa kuća□.
seen be beautiful houses ‘He saw beautiful houses.’
b. □Lijepa kuća□ je vidio.
beautiful houses be seen ‘Beautiful houses, he saw.’
c. □Lijepa□ je vidio □kuća□.
beautiful be seen houses ‘Beautiful houses, he saw.’

クロアチア語の LBE 文(e.g. (20b), (21c), (22c))の韻律

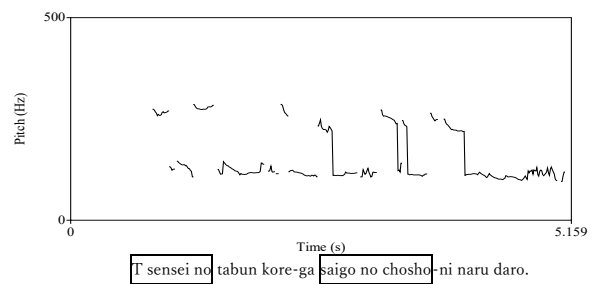
文頭句とそれが意味づけられる名詞が音韻的に卓立し、文全体が（“poetic”とみなされる）
高—低—高の音調メロディを示すという共通点が見られる。



(6) (Tokyo Japanese speaker)



(Yamagata Japanese speaker)



4. 結語：一般化に向けて

- (23) クロアチア語の LBE 文は、意味的に強調したい要素を文頭に移動し、文頭句と意味的に関連する名詞の両方を音韻的に卓立させて文にメロディを与えるという意味で、意味と音韻の両方のインターフェイスに動機づけられているといえる。
- (24) クロアチア語は、音韻的に弱く・低くできる要素は挿入句に限らないという点で英語よりも日本語に近く（例(5b)参照）、この LBE に見られる言語間の違いは音韻卓立を位置で規定する言語（英語）と高低のパターンで規定する言語（日本語、クロアチア語）の違い（田中 2005: 22-25）に帰すことができるかもしれない。

参照文献

- Bošković, Željko. 2005. Left Branch Extraction, Structure of NP, and Scrambling. *Studies in Generative Grammar: The Free Word Order Phenomenon: Its Syntactic Sources and Diversity*, ed. by S. Joachim and M. Saito, 13-73, Mouton de Gruyter, Berlin.
- Chomsky, Noam. 1995. *The Minimalist Program*, MIT Press, Cambridge, MA.
- Chomsky, Noam. 2015. 我々はどのような生き物なのかーソフィア・レクチャーズ(*Two Lectures in Sophia University*), ed. by Naoki Fukui and Mihoko Zushi, Iwanami, Tokyo.
- Dryer, Matthew and Martine Haspelmath (Eds). *WALS online*, accessed on 19 March, 2019.
- 中島由美・野町素己. 2019. ニューエクスプレス+ (プラス) セルビア語・クロアチア語, 白水社、東京.
- Ross, John Robert. 1967. *Constraints on Variables in Syntax*. Doctoral dissertation, MIT, Cambridge, MA.
- Ross, John Robert. 1986. *Infinite Syntax!* Ablex Publishing, Norwood.
- Shiobara, Kayono. 2016. A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese. *MITWPL 79* (Proceedings of FAJL 8): 143-152.
- Takahashi, Masahiko and Kenshi Funakoshi. 2013. On PP Left-Branch Extraction in Japanese. *UPenn WPL 19*: 237-246.
- 田中伸一. 2005. アクセントとリズム, 研究社、東京.
- Uriagereka, Juan. 1988. *On Government*. Doctoral dissertation, University of Connecticut.
- Yatabe, Shuichi. 1996. Long-Distance Scrambling via Partial Compaction. *MITWPL 29*: 303-317.